【和鉄の道 2023】【鉄の話題 |2月】 転載 【風来坊2023】

《Photo 記録》 "鉄の街 尼崎"の新しい息吹 お城が復元されたポストコロナの時代 2023.11.26.

「小林哲郎 尼崎の工場夜景」が郵便切手に"鉄の街 尼崎"にこんな美しい景色がある

かつての工都尼崎の象徴「住友の三本煙突」がそびえていた南北に延びる五合橋界隈を歩く 2023.11.26. by Mutsu Nakanishi



高度成長時代の工都・鉄の街「尼崎」のシンボル 住友鋼管の3本煙突が消えてもうに20年余り 現在の工都「尼崎」の南の工場地帯には今こんなに美しい工場風景が広がっている。

また、今 尼崎の工場夜景の美しい景色が知られるようになり、この I I 月22日には美しい尼崎工場夜景がデザインされた日本郵便切手シート「小林哲朗 尼崎の工場夜景」が発売された

尼崎南部の工業地帯の今昔 インターネット他 2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴 でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ 美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯 戦後復興から高度成長期(1995~1973)



高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月



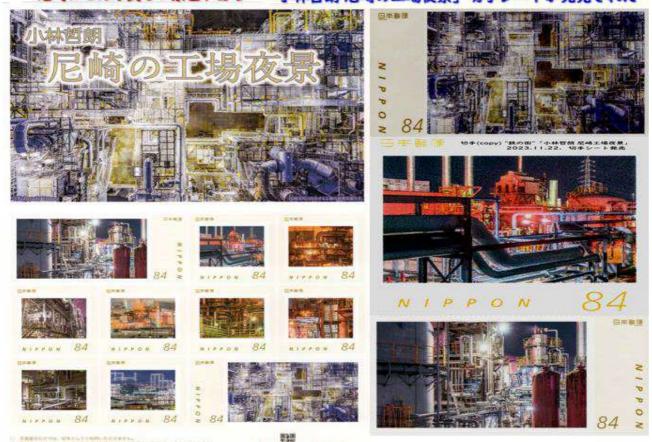
「鉄の街」尼崎(1) 昭和32年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線 朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」 街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴

庄下川の河口に張り巡らされた運河群 五合橋を渡ると工場 の真っ只中 両側に住友鋼管の工場群 左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える東向島東之町町 南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」 懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

"尼崎にこんな美しい景色がある"「小林哲朗 尼崎の工場夜景」切手シートが発売された



高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月



「鉄の街」尼崎(1) 昭和32年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合機線 朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」 街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴

庄下川の河口に張り巡らされた運河群 五合橋を渡るとエ場 の真っ只中 両側に住友網管の工場群 左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える東向島東之町町 南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」 懐かしいかつての尼崎の姿がありありと



五合橋筋南の可動橋 大運橋



五合橋筋の両側 旧住友鋼管本館前 (現日本製鉄)





阪神尼崎から南の工場地帯並びに港へ延びる五合橋筋運河にかかる五合橋から眺める旧住友鋼管(現日本製鉄関西製造所尼崎)かつて、建物の傍に巨大な煙突が3本立ち並び、この三本煙突は"工都・鉄の街 尼崎"成長の象徴と愛され、朝夕には五合橋を渡って工場や港へ向かう多くの人並や自動車がひしめき、活気ある工場の鋼管騒音と雑踏の音が成長する尼崎の象徴だった。今も美手入れの行き届いたしいグリーンベルトの中をひっきりなしに自動車が南へ自動車が下ってゆきますが、静かなもの。令和の新しい時代の中変容する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場景色変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿です。



阪神尼崎から南の工場街・港へ延びる幹線道路 五合橋筋界隈の秋景色 2023.11.26.午後

(PERSTERNE

PICK UP 尼崎現代史 1995年

阪神工業地帯初の高炉の最後

昭和7年(1932)、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋立地に大工場を建設、昭和10年代前半には高い収益を上げ、尼崎臨海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しました。昭和16年(1941)には尼崎製鉄所が新設され、阪神工業地帯で初となる高炉(溶鉱炉)を建設しました。その後、尼崎製鋼と尼崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、昭和40年(1965)に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりました。尼崎製鉄所には昭和32年(1957)建設の2号高炉もあり、2基の高炉は尼崎臨海工業地帯のシンボルでしたが、阪神・淡路大震災後の平成7年(1995)、両高炉は取

り壊されることとなり、 尼崎製鉄所跡地は兵庫 県による「尼崎21世 紀の森」へと変貌して いきました。











尼崎工場夜景の切手を買い、久しぶりに尼崎南部の工業地帯の街歩きになりました。 Mutsu Nakanishi

日本郵便 切手シート(copy) 小林哲朗「尼崎の工場夜景」2023.11.22.発売

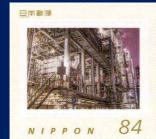




NIPPON



















尼崎南部の工業地帯の今昔 インターネット他 2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ 美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯 戦後復興から高度成長期(1995~1973)







鉄鋼・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が壮観と映っていた

◆高度成長期を経て変貌が進む尼崎の工場地帯 2000年代







なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部工場街へ 写真中央:発電所跡地に立つ巨大ハイテク工場 2009.2.4. ◆今 令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景 五合橋界隈



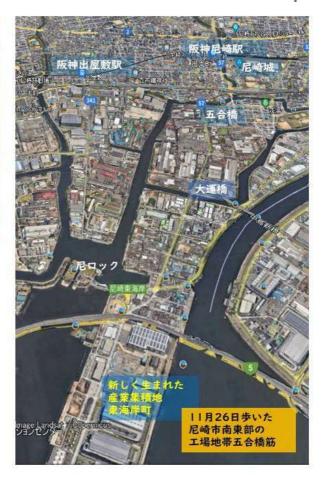


令和の新しい時代に変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿 五合橋筋界隈 変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色



阪神尼崎から南の工場街・港へ延びる幹線道路 五合橋筋界機の秋景色 2023.11.26.午後





添付参考資料 本文重複しているものも含めSlide Sizewでの補足収録

お城が復元されたポストコロナの新時代"鉄の街 尼崎"の新しい息吹 2023.11.26.

"尼崎にこんな美しい景色がある" 「小林哲郎 尼崎の工場夜景」切手シートが発売された



【和鉄の道 2023】【鉄の話題 12月】

▽ 写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。郵便料金の納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

《Photo 記録》 "鉄の街 尼崎"の新しい息吹 お城が復元されたポストコロナの時代 2023.11.26. 「小林哲郎 尼崎の工場夜景」が郵便切手に"鉄の街 尼崎"にこんな美しい景色がある かつての工都尼崎の象徴「住友の三本煙突」がそびえていた南北に延びる五合橋界隈を歩く



高度成長時代の工部・鉄の街「尼崎」のシンボル 住友顕管の3本煙突が消えてもうに20年余り 現在の工都「尼崎」の南の工場地帯に 今こんなに美しい工場風景が広がっている。 また、今 尼崎の工場夜景の美しい景色が知られるようになり、この11月22日には 美しい尼崎工場夜景がデザインされた日本郵便切手シート「小林哲郎 尼崎の工場夜景」が発売された

尼崎南部の工業地帯の今昔 インターネット他 2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴 でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ美しい姿に



鉄網・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が社観と映っ ◆高度成長期を経て変貌が進む尼崎の工場地帯 2000年代



なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部工場街へ 写真中央:発電所跡地に立つ巨大ハイテク工場 2009,2.4. ◆今 令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景 五合橋界隈



令和の新しい時代に変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿 五合橋筋界限 変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色

お城が復元されたポストコロナの新時代"鉄の街 尼崎"の新しい息吹 2023.11.26. "尼崎にこんな美しい景色がある"「小林哲郎 尼崎の工場夜景」切手シートが発売された





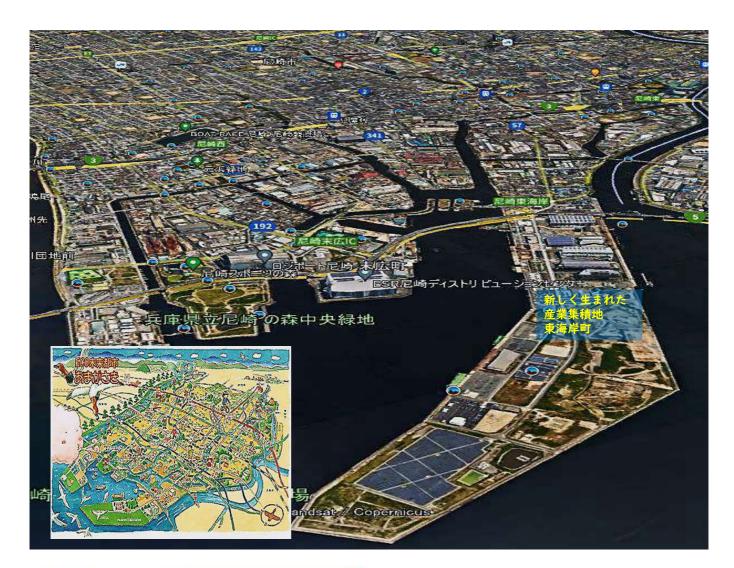
「鉄の情況、尾崎(1) 昭和32年当時の住在全原議師管製造所の二本機僚、 住女産馬工房の中大使用32年3月20日終刊。 左下から右上へ北の原料売場取から工場的と乗りて市の港へ原場商業の工業地帯を責く特権退路五合機能 毎年日上地震を見上げなから、二年、個人人たちの基準と、自動的の対比に制から支援等で「住在303本規定」 前中からも名く見え、「売」を規えた場合がよくかか「活気あられる日本」の表版 正すり回答のに必要しなられた規則をことが表現をある。これの「通り、2年、相談には表別をの工場群 上で川の河には労働さられた規則を正と動きであると、3年、日本に選挙にかから可動権「大連権」 植かしいかつての原場の姿々ありありと



会構筋の条例 旧伐友鋼管本館前 (曜日本新鉄)



版神尼助から楽の工場地等並びに接へ延びる五合機動選派にかかる五合機から眺める旧住友開管(現日本歌級関西歌造所記論) かつて、顕物の機に巨大な環境が3 本立ち並び、この三半環境は「工路、最の研記地・成長の機を受ける、 納タには五合機 を渡って工場や港へ用から多くの人並や自動を対ひしあき、 流気も工場の開催制度とは脳の含め成まする足物の最初とった。 今も廃手入れの行き駆いたしいグリーンベルトの中をひっきりないに自動車が用へ自動車が下ってゆきますが、静立ならの、 今和の新にい時代の中、変容も動と共に新しい工機和が触りなず新しい工場を勝つ、変かする場合の新にいめぞす。





阪神尼崎から南の工場街・港へ延びる幹線道路 五合橋筋界隈の秋景色 2023.11.26.午後

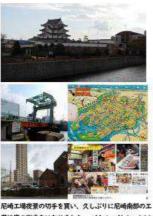
(Bresterene (B) PICK UP 尼崎現代史 1995年

阪神工業地帯初の高炉の最後

昭和7年(1932)、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋 立地に大工場を建設、昭和10年代前半には高い収益を上 け、尼崎陽海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しま した。昭和16年 (1941) には紀崎製鉄所が新設され、 阪神工業地格で初となる高が (前泉前) を建設しました。そ の後、紀崎製鋼と紀崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、 昭和40年(1965)に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりまし た、尼崎製鉄所には昭和32年(1957)建設の2号高炉 もあり、2基の高がは尼崎臨海工業地帯のシンボルでした が、旅神・旅路大震災後の平成7年(1995)、両高がは恥

り壊されることとなり、 尼岭製鉄所辦地は兵庫 現による「配輪21世 紀の森」へと変貌して







阪神尼崎駅

個別 7 尼崎城

高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月



「鉄の街」尼崎(1) 昭和32年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線 朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」 街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴

庄下川の河口に張り巡らされた運河群 五合橋を渡ると工場の真っ只中 両側に住友鋼管の工場群 左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える東向島東之町町 南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」 懐かしいかつての尼崎の姿がありありと

高度成長の時代を支えた"鉄の街の南に聳えた尼崎"の象徴 「住友の三本煙突」1957年5月



「鉄の街」尼崎(1) 昭和32年当時の住友金属鋼管製造所の三本煙突

住友金属工業60年小史(昭和32年5月20日発行)

左下から右上へ 北の阪神尼崎駅から工場街を貫いて南の港へ 尼崎南東部の工業地帯を貫く幹線道路 五合橋線 朝夕 巨大煙突を見上げながら、工場へ 働く人たちの自転車・自動車の群れと街中から見晴らす「住友の3本煙突」 街中からも良く見え、「美」を越えた誰もがよく知る「活気あふれる尼崎」の象徴

庄下川の河口に張り巡らされた運河群 五合橋を渡ると工場の真っ只中 両側に住友網管の工場群 左側 東向島西之町町 右側に三本煙突が見える東向島東之町町 南へ進めば運河にかかる可動橋「大運橋」 懐かしいかつての尼崎の姿がありありと



五合橋筋南の可動橋 大運橋



五合橋筋の両側 旧住友鋼管本館前 (現日本製鉄)





阪神尼崎から南の工場地帯並びに港へ延びる五合橋筋運河にかかる五合橋から眺める旧住友鋼管(現日本製鉄関西製造所尼崎)かつて、建物の傍に巨大な煙突が3本立ち並び、この三本煙突は"工都・鉄の街 尼崎"成長の象徴と愛され、朝夕には五合橋を渡って工場や港へ向かう多くの人並や自動車がひしめき、活気ある工場の鋼管騒音と雑踏の音が成長する尼崎の象徴だった。今も美手入れの行き届いたしいグリーンベルトの中をひっきりなしに自動車が南へ自動車が下ってゆきますが、静かなもの。令和の新しい時代の中変容する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場景色変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿です。

尼崎南部の工業地帯の今昔 インターネット他 2023.11.26.

戦後日本の高度成長を支えた"鉄の街・工都 尼崎" 騒音と煤煙が立ち昇る姿は、尼崎の工業地帯の活気の象徴 でも現在の工場街は青空と静かさを取り戻し、ハイテク化された建物が整然と建ち並ぶ 美しい姿に

◆戦後日本の高度成長を支えた尼崎南部の工業地帯 戦後復興から高度成長期(1995~1973)







鉄鋼・発電所等々大工場の煙突が建ち並び、噴煙を立ち昇らせる姿が壮観と映っていた

◆高度成長期を経て変貌が進む尼崎の工場地帯 2000年代





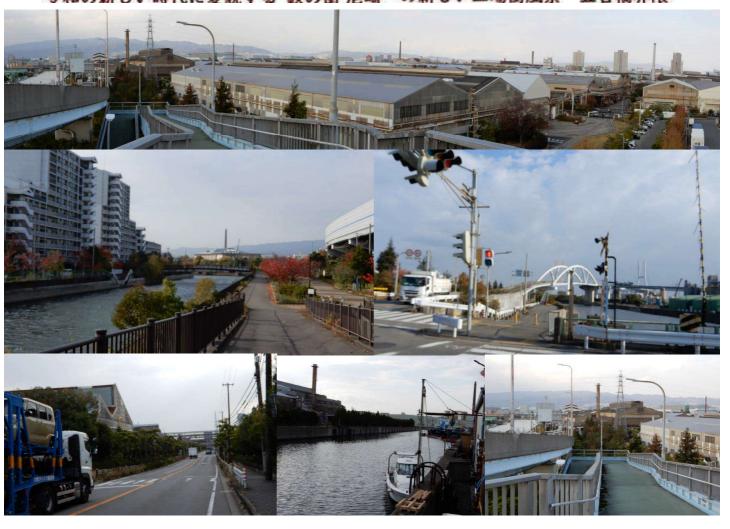


なぎさ回廊・運河が結ぶ現在の尼崎南部工場街へ 写真中央:発電所跡地に立つ巨大ハイテク工場 2009.2.4. ◆今 令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景 五合橋界隈



令和の新しい時代に変貌する"鉄の街尼崎"の新しい姿 五合橋筋界隈 変貌する街と共に新しい工場群が織りなす新しい工場街景色

令和の新しい時代に変貌する"鉄の街 尼崎" の新しい工場街風景 五合橋界隈



尼崎市立歴史博物館

PICK UP 尼崎現代史 1995年

阪神工業地帯初の高炉の最後

昭和7年(1932)、尼崎製鋼所が設立され、尼崎築港埋立地に大工場を建設、昭和10年代前半には高い収益を上げ、尼崎臨海工業地帯を代表する鉄鋼メーカーへと成長しました。昭和16年(1941)には尼崎製鉄所が新設され、阪神工業地帯で初となる高炉(溶鉱炉)を建設しました。その後、尼崎製鋼と尼崎製鉄は合併・分離を繰り返しながら、昭和40年(1965)に神戸製鋼所尼崎製鉄所となりました。尼崎製鉄所には昭和32年(1957)建設の2号高炉もあり、2基の高炉は尼崎臨海工業地帯のシンボルでしたが、阪神・淡路大震災後の平成7年(1995)、両高炉は取

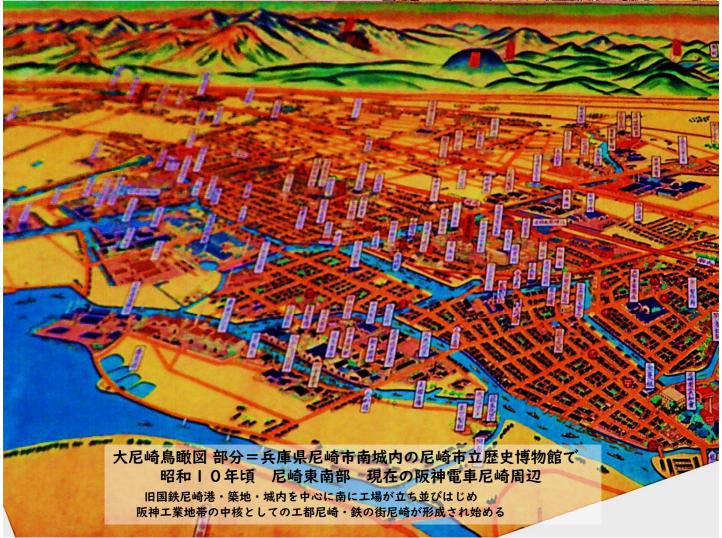
り壊されることとなり、 尼崎製鉄所跡地は兵庫 県による「尼崎21世 紀の森」へと変貌して いきました。

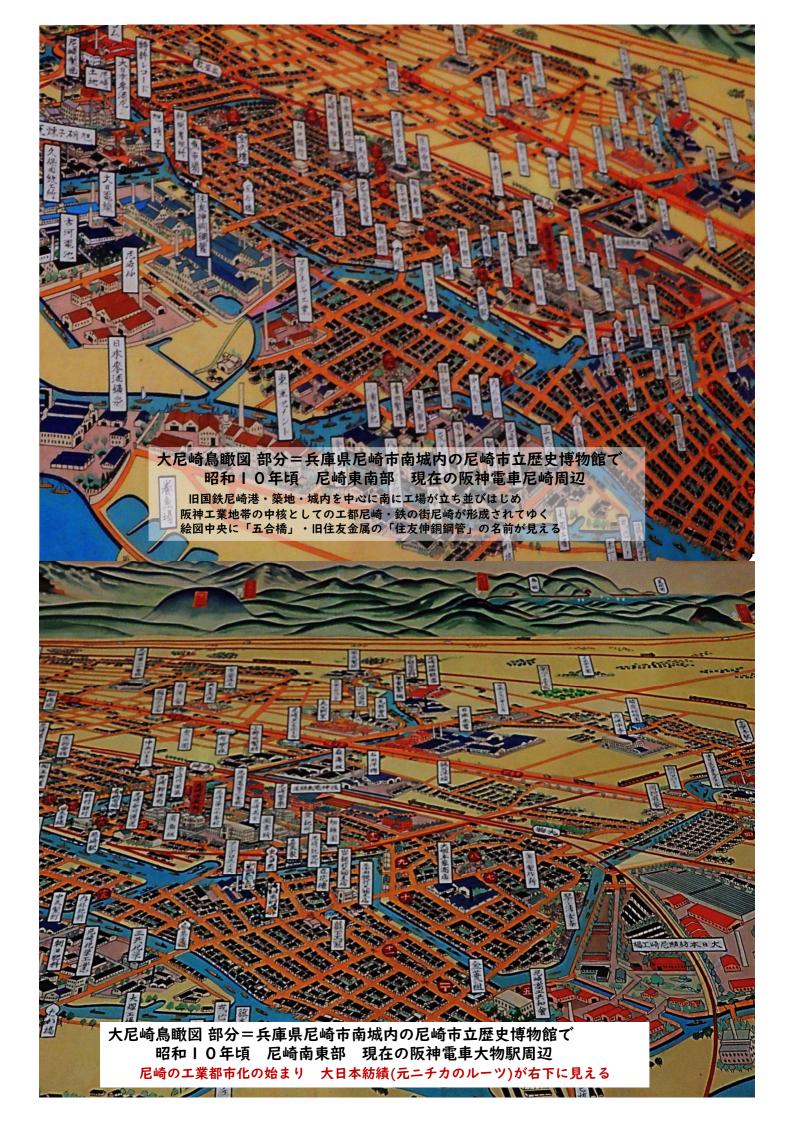












日本郵便 切手シート(copy) 小林哲朗「尼崎の工場夜景」2023.11.22.発売





NIPPON 84 N

